

光島 徹, 田辺 聡 (監修)
松本雄三, 木下千万子 (編)

消化器内視鏡スタッフマニュアル

田中信治

(広島大教授・光学医療診療部長)

このたび、消化器内視鏡の大家である光島徹先生と田辺聡先生の監修のもと、松本雄三氏、木下千万子氏の両氏の編集により『消化器内視鏡スタッフマニュアル』が発刊された。

これまでにも消化器内視鏡診療に携わるスタッフのためのマニュアルは発刊されているが、その多くが医師あるいはコメディカルのいずれかを対象としたものである。本書の最大の特徴は、医師・コメディカル全体を対象としたマニュアルであり、医師が読んでもコメディカルが読んでも非常に参考になるガイドブックであることである。しかもその内容が素晴らしい。一般に、医師の興味は内視鏡診療の実際に、コメディカルの興味は診療のサポート面に傾きがちであるが、本書は、内視鏡検査室の環境整備、医師とコメディカルのコ

ミュニケーション、患者の心情・プライバシーを含めて、リスクマネジメント、最先端の内視鏡診療の実際まで細部にわたって分かりやすく記述されている。

近年の内視鏡医学の進歩により、内視鏡や周辺機器は複雑で多彩なものとなっているし、内視鏡診療の内容も非常に高度で専門的なものになっている。また、高齢化社会に伴い合併症を持った患者や種々の薬剤を内服している患者も多い。内視鏡診療に関する問診やインフォームド・コンセント、クリティカルパスなども非常に重要な時代になっている。本書は、とかく内視鏡診療の実際のものにのみ込込みがちな医師にとっては、ついおろそかになる内視鏡室全体の環境整備や患者に対する気遣いが痛いほどよく分かる内容であるし、コメディカルにとっては、現在の

高度な内視鏡診療の実際が平易に確実に理解できる簡潔な解説がなされており、医師とスムーズな連携をとるための知識が確実に習得できる構成になっている。

内視鏡診療の内容が日々進歩し、高度な技術を要するとともに、常に偶発症と背中合わせて診療しているなかで、医療に対する社会の目も厳しくなっており、医師・コメディカルに要求されている負担はますます大きなものになりつつある。このような背景において、本書はまさに時を得た発刊である。医師もコメディカルも本書を熟読することで初心に帰り、不足している知識を補い、新鮮な気持ちを持ち、かつベストコンディションで内視鏡診療の現場に従事できることを確信する。つまり、患者にとっても、医師・コメディカルにとっても幸せになれる一冊である。本書が多くの内視鏡診療従事者に利用され、わが国における内視鏡診療の内容の充実と質の向上に寄与することを切に期待する。

●B5/頁 328/2008 年/定価 4,620 円
(本体 4,400 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-00397-1]

医学書院 刊